



IUFRO-J NEWS

No. 132 (2022.7)

元 IUFRO-J 事務局議長，鈴木和夫博士が 国際森林研究機関連合功労賞（IUFRO-DSA）を受賞

IUFRO-J 事務局

はじめに

「森林・林業は身体で感じる経験が大切です。それと同時に、これまでルール，原理原則を見直すことも必要です。将棋の藤井聡太棋士が AI を活用して定石破りの活躍をしているように，従来の概念にない新しいもの見方が森林・林業にも必要です。そのためには，一人一人，個々の力が大切で，それぞれが楽しみながら研究と成果の社会還元に進んでください。」

2021年9月末に開催された IUFRO 理事会で元 IUFRO-J 議長，鈴木和夫博士に対して IUFRO 功労賞が授与されることが決まりました。IUFRO 功労賞は，IUFRO の組織改善における特別な任務の遂行，役員と

しての卓越した仕事，地理的地域における IUFRO の活動の強化，IUFRO の国際的地位の育成など，IUFRO の科学的，技術的，組織的目的の促進に大きく貢献した人々を対象に授与されます。IUFRO の会員機関もしくは会員による推薦を理事会で審議し授与されるものです。

2022年5月30日に表彰状が中静透 IUFRO 国際評議会日本代表から，記念の木製トロフィーが坪山良夫代表代理から鈴木博士に手渡されました（写真-1，写真-2）。冒頭に引用したのは，授与式での鈴木博士の挨拶です。心に響く言葉を，直接聞けたのは幸いでした。本稿では，鈴木博士の IUFRO への貢献内容と，木製トロフィーについて紹介します。



写真-1 表彰状授与



写真-2 記念トロフィー授与

Professor Kazuo Suzuki Received IUFRO's Distinguished Service Award
IUFRO-Japan Secretariat

鈴木博士の IUFRO への貢献

功労賞表彰状では、鈴木博士の IUFRO への貢献として次の 3 件を挙げています。1) 1991-2003 年バイオテクノロジーによる森林再生 (BIO-REFOR 国際ワークショップの開催, 2) 1996-2000 年 IUFRO Division 7 [Forest Health] の副コーディネーター, 2001-2005 年 IUFRO Division 7 コーディネーター, IUFRO 理事, 3) 2007-2014 年 IUFRO-J 事務局議長。それぞれの概要を順に概説します。

1) 1991-2003 年バイオテクノロジーによる森林再生 (BIO-REFOR 国際ワークショップの開催)

BIO-REFOR (バイオリフォル) は, Biotechnology Assisted Reforestation in Asia Pacific Region の略称で, IUFRO の発展途上国特別プログラム (SPDC: Special Programme for Developing Countries) 活動の一つとして実施されました。IUFRO-SPDC は, 1981 年に日本 (京都) で開催された IUFRO 世界大会において, 国連食糧農業機関 (FAO) と世界銀行 (World Bank) の勧告を受けて発足しました。このことが契機となり, 日本の外務省から IUFRO-SPDC への拠出が決定され, 1992 年につくばで開催された国際ワークショップを皮切りに 2003 年にかけて, 12 回の国際ワークショップがアジア各国で開催されました。

BIREFOR 国際ワークショップでの研究発表は英語のプロシーディングズとして発行されるとともに, 選ばれた論文をとりまとめた書籍 “Plantation Technology in Tropical Forest Science” として Springer から出版されました。それぞれのワークショップの記録が, IUFRO-J ニュースや熱帯林業 (現海外の森林と林業) 誌で報告されています。

2) 1996-2000 年 IUFRO Division 7 [Forest Health] の副コーディネーター 2001-2005 年 IUFRO Division 7 コーディネーター, IUFRO 理事

IUFRO Division 7 は, 1996 年に従来の Division 2 “Forest Plant and Protection” から別れて設置されたもので, 新たな視点の樹木医の活動などが含まれました。Division 7 の役員としてまた IUFRO 理事としての活動は, 定期的に IUFRO-J News で報告され, IUFRO の最新情報が IUFRO-J 会員に共有されました。

3) 2007-2014 年 IUFRO-J 事務局議長

IUFRO-J 事務局議長として, また IUFRO 国際評議会日本代表として, 日本の森林研究機関と IUFRO の協力

関係の維持強化に貢献されました。IUFRO には世界各国の森林研究機関が参画し, 国際評議会にはそれぞれの国の代表が登録されています。しかし IUFRO-J のように国内の森林研究機関を取りまとめる仕組みはありません。このため IUFRO-J の取り組みは IUFRO 本部から高く評価されています。IUFRO 理事の経験を活かした IUFRO-J 事務局議長, IUFRO 国際評議会日本代表としての活動は, IUFRO-J ニュースの記事として会員に共有されています。

IUFRO 功労賞トロフィーについて

IUFRO 功労賞の記念トロフィー (写真-3, 4) のデザインは, 2019 年の世界木材の日のテーマ [CHANGE] を記念して, 国際木材文化協会 (IWCS) と IUFRO が密接に協力して開催したコンペティションで選出されました。共同審査員によって, モザンビーク出身のアラン・シュワルツがデザインしたトロフィーが選ばれました。アラン・シュワルツが 2019 年 3 月に賞を授与されたその日, 1994 年に設立されたモザンビーク森林センターが, 強烈な熱帯サイクロン [イダイ] によって壊滅的な被害を受けたことを, 彼は知らされたのです。この賞は, 彼がそのショックを乗り越え, 今後の活動の希望となりました。

このトロフィーは, 何千人もの人々と何百万本もの木々からなるという, IUFRO の無数の要素を象徴する



写真-3 記念トロフィー前面



写真-4 記念トロフィー側面

ものです。そのため、トロフィーは10種類の木材と9本の“スティック”で構成され、1つの堅固な土台で結合されています。スティックは、一般的な廃棄物やトリムの大工仕事、旅先での生産作業から再利用されたものです。スティックはランダムに並べることができるため、一つのトロフィーが、多様な側面を示すことができます。

トロフィーの素材として選ばれたのは、Mezimbiteで入手できる代表的な樹種で、すべて持続可能な資源から調達されたものです。マホガニー (*Khaya nyassica*)、チーク (*Tectonis grandis*)、リードウッド (*Combretum imberbe*)、ココナッツ (*Cocos nucifera*)、ソングロロ (*Swartzia madascariensis*)、Panga panga (*Milletia stuhlmanii*)、Megungu Shitum (*Acacia nigrescens*)、Kiaat (*Pterocarpus angolensis*)、Mezimbite (*Androstachys johonsoii*)、Mopane (*Colophospermum mopane*) が用いられています。仕上げには蜜蝋と天然樹木由来のオイルが使われています。

参考

IUFRO 功労賞 1981-2019

Teplyakov, Victor K. 2020. The Distinguished Service Award of the International Union of Forest Research Organizations: 1981-2019. Vienna, IUFRO. 138pp.

IUFRO-J News 第129号に紹介記事があります。

BIO-REFOR に関する公刊図書

Suzuki, K., Ishii, K., Sakurai, S., and Sasaki, S. (Eds.) 2005. Plantation Technology in Tropical Forest Science, 292pp, Springer, Tokyo, ISBN-10 4-431-28053-7

「熱帯林業」に掲載された BIO-REFOR ワークショップ記録

下記から全文 PDF ファイルをダウンロードできます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/ttf/list/-char/ja>

横田明彦 (1992) IUFRO-SPDC プレワークショップ「フタバガキ科樹種の菌根菌と増殖」に参加して熱帯林業. 23 : 37-38

小林富士雄・鈴木和夫・森徳典. (1992) Bio-Refor 国際集会「熱帯林の再生を目指して」報告. 熱帯林業 25 : 60-71

鈴木和夫, 石井克明, 櫻井尚武 (1994) バイオリフォル・ジョグジャカルタ・ワークショップ —アジア太

平洋地域における熱帯林再生—. 熱帯林業 29 : 55-62.

鈴木和夫・則定真利子・石井克明・櫻井尚武 (1995) バイオリフォル・マレーシア・ワークショップ—熱帯林再生とバイオテクノロジー—. 熱帯林業 33 : 53-59.

櫻井尚武・則定真利子・石井克明・鈴木和夫 (1995). 第20回 IUFRO 大会—注目を集めた熱帯地域の問題と熱帯研究グループの活躍. 熱帯林業 35 : 60-69

石井克明・田中浩・櫻井尚武・鈴木和夫 (1999) Fortrop '96 国際会議—21世紀の熱帯林—. 熱帯林業 39 : 32-40

石井克明, 鈴木和夫 (1999) バイオリフォル・ブリスベンワークショップ—熱帯林修復達成にむけて—の概要. 熱帯林業 45 : 64-70.

鈴木和夫, 石井克明 (2000) バイオリフォル・カトマンズワークショップ—バイオテクノロジーと生物多様性—. 熱帯林業 48 : 47-52.

益盛眞也, 石井克明, 鈴木和夫 (2001) 第9回バイオリフォル国際ワークショップ (クアラルンプール). 熱帯林業 51 : 70-73.

益守眞也, 石井克明, 鈴木和夫 (2003) 第10回バイオリフォル国際ワークショップ (東京大会). 熱帯林業 56 : 79-82.

石井克明, 齋藤陽子, 櫻井尚武, 益守眞也, 鈴木和夫 (2003) バイオリフォル・ソウルワークショップ—持続可能な森林生態系の回復—. 熱帯林業 57 : 60-65.

益守眞也, 中静透, 鈴木和夫 (2004) 第12回バイオリフォル・ジョグジャカルタ集会. 熱帯林業 61 : 69-72.

「IUFRO-J News」に掲載された鈴木和夫博士執筆記事 (共著含む) 一覧

下記から全文 PDF ファイルをダウンロードできます。

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/iufro-j%20NEWS.html>

第51号 IUFRO-SPDC, BIO-REFOR (熱帯林再生研究者連合) ワークショップに参加して

第55号 1994年 IUFRO-SPDC, バイオ・リフォル (熱帯林再生研究者連合) マレーシア

第62号 ユフロ第35回理事会が南アフリカ, 第36回理事会がイタリアで開催

第64号 IUFRO-SPDC, 第6回バイオ・リフォル・ワークショップ

第66号 第7回マニラ・ワークショップと第8回バイ

オリフォル・ワークショップ (BIO-REFOR/IUFRO-SPDC)
 ユフロ・コスタリカ (第 37 回) 理事会
 マツ林の保全に関する国際シンポジウムとフォレスト・ヘルス部会
 第 68 号 第 38 回ユフロ理事会 (コペンハーゲン) 報告
 一次期ユフロ体制の概要—
 第 69 号 SPDC バイオリフォル・カトマンズワークショップ—森林再生と生物多様性保全のためのバイオテクノロジーの利用—
 第 72 号 SPDC-バイオ・リフォル第 9 回ワークショップ (クアラルンプール) 報告
 第 73 号 新ユフロ理事会 (第 40 回) がプラハで開催さ

れる
 第 75 号 2002 年 3 月 18 日発行 SPDC-バイオ・リフォル第 10 回ワークショップ (東京) 報告
 第 76 号 ユフロ第 41 回バンクーバー理事会
 第 78 号 バイオ・リフォルワークショップ (ソウル) 報告
 第 80 号 ユフロ第 42 回ケベック理事会
 第 83 号 ユフロ第 43 回ソウル理事会
 第 91 号 議長就任にあたって
 第 100 号 IUFRO-J NEWS 100 号を迎えて
 第 102 号 議長からのメッセージ
 第 112 号 第 24 回ユフロ世界大会, ソルトレイクシティで開催—国際化からグローバル化へ—

第 26 回 APAFRI 理事会参加報告

(国研) 森林研究・整備機構森林総合研究所理事 坪山良夫

2022 年 2 月 15 日に以下の要領で開催された第 26 回アジア太平洋森林研究機関連合 (APAFRI) 理事会に参加しましたのでその概要を紹介します。今回の理事会もオンラインで開催されましたが、議長の Dr. Ismail Parlan は対面での会議の重要性を指摘され、次回以降の対面での開催に期待感を示していました。理事会は下記の議事のとおり進められました。今回は、特に APAFRI Forestry Award と APAFRI Scientific Attachment Program について議論が行われました。これらの制度を活用して、APAFRI の発展と会員機関の交流が促進されることを期待します。

会議概要

会議名：第 26 回 APAFRI 理事会

日時：2022 年 2 月 15 日 14:00-16:00 (マレーシア標準時)

場所：オンライン (ZOOM)

議事：

1. Introduction
2. Adoption of the Agenda
3. Confirmation of Minutes of the 25th APAFRI Executive Committee Meeting

4. Progress Report on APAFRI's activities and programmes
5. Financial Report
6. Concept Paper – APAFRI Forestry Award
7. Concept Paper —APAFRI Scientific Attachment Program
8. Other Matters
9. Concluding Remarks

参加者：

1. Dr. Ismail Parlan FRIM, Malaysia Chair
2. Dr. Yoshio Tsuboyama FFPRI, Japan Vice Chair
3. Dr. Hyungsoon Choi NIFoS, Republic of Korea Immediate Past Chair
4. Dr. Syam Viswanath KFRI, India Member
5. Dr. Romulo T. Aggangan FPRDI, Philippines Member
6. Dr. Riina Jalonen Bioversity International, Malaysia Member
7. Dr. Manoj Kumar Dube IPIRTI, India Member
8. Dr. Zheng Yongqi RIF-CAF, China Member
9. Dr. Pin Kar Yong APAFRI Secretariat, c/o FRIM Executive Secretary
10. Dr. Gan Kee Seng APAFRI Secretariat, c/o FRIM Fellow

Report on the 26th APAFRI Executive Committee Meeting

Yoshio Tsuboyama: Forestry and Forest Products Research Institute

XXVI IUFRO World Congress 2024 開催の案内

IUFRO 本部より XXVI IUFRO WORLD CONGRESS の案内がありました。セッションプロポーザルの締め切りは 2022 年 10 月 13 日です。講演要旨の締め切りは、2023 年 6 月 2 日です。

XXVI IUFRO World Congress 2024 の概要と主な日程は以下の通りです。

会議名：XXVI IUFRO World Congress 2024

FORESTS AND SOCIETY TOWARDS 2050

開催場所：スウェーデン王国ストックホルム市

開催日：2024 年 6 月 23–29 日

Congress website: <https://iufro2024.com/>

The IUFRO World Congress

The World Congress, attracts 3 — 5000 participants from all over the world, including representatives from governments, NGO's and industry.

The Congress offers the host country the greatest of possibilities to present its qualities and messages to the world.

The recent congresses

The most recent IUFRO World Congresses were held in Curitiba, Brazil, Brisbane, Australia, Seoul, South Korea and Salt Lake City, U.S.A.

The global network for forest science IUFRO, International Union of Forest Research Organizations, is the global network for forest science.

IUFRO is one of the world's oldest international scientific organizations — established in 1892 on the conviction that scientific research needs to be an international activity.

Today IUFRO unites over 15,000 scientists in more than 120 countries from virtually all parts of the world.

Knowledge for decision makers

As a non-profit and entirely non-aligned organisation, IUFRO can provide unbiased and high quality knowledge, with the aim that decision-making at all levels is evidence-based and reliable.

The unique qualities of IUFRO are also well reflected through the more than 70 IUFRO-sponsored meetings held every year around the globe.

The most important IUFRO meeting is of course its World Congress, organized every fifth year with a scientific core, attracting participants from all world regions.

Stockholm is RIGHT ON

Sweden is a forest country, with top quality forest research. The Nordic countries can show and share experiences from a variety of landscapes, industries and stakeholders.

Stockholm, supported by the Nordic and Baltic countries, for the IUFRO World Congress 2024 is RIGHT ON!

Key dates

2022 年

6 月 15 日

Call for congress session proposals

10 月 13 日

Session proposal submission deadline

2023 年

1 月 17 日

Notification of session proposals

2 月 1 日

Call for abstract submission

6 月 2 日

Abstract submission deadline

6 月 2 日

Online registration opens

10 月 30 日

Abstract acceptance decisions

2024 年

1 月 15 日

Early-bird registration deadline

6 月 23–29 日

XXVI IUFRO World Congress

IUFRO-J 令和 4 (2022) 年機関代表会議

令和 4 年 3 月 23 日 (水) の 10 時 30 分よりオンライン会議 (Microsoft Teams) システムを利用して「IUFRO-J 令和 4 (2022) 年機関代表会議」を開催した。その結果、議案は承認されました。以下、代表会議で審議、承認された議題の概要を報告いたします。

議題 1. 2021 年度会務報告

1-1. 一般会計事業

1) IUFRO-J NEWS 発行

No.130 (2021 年 7 月)

- ・ IUFRO 8.01.02 Landscape Ecology 作業部会の紹介
- ・ ワーキングパーティー・ジョイントウェビナー「福島とチェルノブイリの森—人々、野生生物、ランドスケープ—」(4 月 14 日)の開催報告
- ・ IUFRO-J 令和 3 (2021) 年機関代表会議
- ・ IUFRO INFORMATION
- ・ 事務局からのお知らせ

○ IUFRO 本部ウェブサイトでの案内：

<https://www.iufro.org/discover/noticeboard/iufro-announcements/article/2021/08/20/iufro-japan-news-no-130/>

No.131 (2022 年 2 月)

- ・ IUFRO World Day に加盟機関として参加して
- ・ オンライン国際イベントの時差の壁：IUFRO World Day への参加報告
- ・ IUFRO live event 若手研究者インタビュー
- ・ IUFRO 8.01.02 Landscape Ecology 作業部会の 30 周年記念植樹
- ・ IUFRO ハイブリッド科学会議「森林における生物学的侵入：貿易・生態学・管理」にリモート参加して
- ・ IUFRO INFORMATION
- ・ 事務局からのお知らせ

○ IUFRO 本部ウェブサイトでの案内 (依頼中)：

<https://www.iufro.org/fr/discover/noticeboard/iufro-announcements/>

2) IUFRO 関連研究集会事務局・参加助成

申請 1

補足：以下の条件をつけての採択としている。

- ・ 趣旨に沿って活用し、使途内容を IUFRO-J 事務局に報告する。残金が生じたら返納。
- ・ 感染症の蔓延状況により、開催形態の変更や事前想定外の使途を検討する場合は、あらかじめ事務局に相談する。
- ・ IUFRO-J の助成があることを、研究集会参加者に明示。

3) 研究集会の後援

以下の研究集会について、広報支援を行った。

- (1) IUFRO 3.08.00 Small-scale Forestry International Conference 2022 (2022 年 10 月 26 ~ 31 日 開催)：IUFRO-J NEWS No. 131 に情報を掲載 (なお、本研究集会については、後日 IUFRO 研究集会事務局助成にも採択された。)

4) IUFRO 本部との連携

- (1) IUFRO が発信する情報等を、IUFRO-J ウェブサイトの「新着情報」にも逐次転記し、広報した。(2021 年 3 月 11 日 ~ 2022 年 3 月 22 日までの期間で、計 31 件。)

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/>

※今年度は該当となる記事がなかったため、IUFRO-J NEWS 発行直後から「一部記事」PDF として部分公開した例はない。

5) IUFRO-J 活動の普及啓発

- (1) IUFRO-J の活動を国内外のより多くの人に紹介するため、IUFRO 本部ウェブサイトでの IUFRO-J NEWS の発行案内を行った。また No. 113 以降で行っている記事執筆者への PDF の提供を新刊分 (No. 130-131) でも実施した。

<https://www.iufro.org/discover/noticeboard/iufro-announcements/>

- (2) IUFRO-J NEWS 冊子体を関係機関の図書館等に寄贈した。
- (3) ISSN 日本センター (国立国会図書館収集書誌部 逐次刊行物・特別資料課) に IUFRO-J NEWS 発行毎に、2 部送付した。
- (4) 会員外への情報発信の一環として、発行後 1 年を

過ぎた IUFRO-J NEWS は、ウェブサイト上に PDF ファイルとして公開した。

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/iufro-j%20NEWS.html>

6) 会員内の情報共有

- (1) 必要事項について、IUFRO-J のメーリングリストを通じて、配信を行った。加えて、会員から申し出のあった企画の案内・調査への協力なども周知した。

各メーリングリスト送付範囲は以下の通り：

[iufro-j_rep] 機関代表者および連絡員

[iufro-j_c] C 会員（個人会員）

[iufro-j] 事務局にメールアドレスを連絡頂いている全 IUFRO-J 会員

--[iufro-j_rep:31] 【30 日（火）12：00 迄】 IUFRO-J 令和 3（2021）年機関代表（メール）会議 Wed, 24 Mar 2021

--[iufro-j_rep:32] IUFRO-J 令和 3（2021）年機関代表（メール）会議（原案承認のご連絡） Wed, 31 Mar 2021

--[iufro-j_rep:33] IUFRO-J 事務局担当 部署名変更のご挨拶（企画部国際戦略科…） Thu, 01 Apr 2021

--[iufro-j:40] ☆ IUFRO WP ウェビナーのご案内「福島とチェルノブイリの森：人、野生生物、ランドスケープ」4/14（水）22 時～：IUFRO-J 事務局より☆ Thu, 01 Apr 2021

--[iufro-j_rep:34] IUFRO-J NEWS No.130 の配信（機関内会員へ配布のお願い） Tue, 27 Jul 2021

--[iufro-j_rep:35] 送付のお知らせ（会費納入のお願い） Fri, 20 Aug 2021

--[iufro-j_c:4] 送付のお知らせ（会費納入のお願い） Fri 20 Aug 2021

--[iufro-j_rep:36] 参加登録受付開始！～ IUFRO World Day @ 9 月 28 & 29 日 Mon, 13 Sep 2021

--[iufro-j_c:5] 参加登録受付開始！～ IUFRO World Day @ 9 月 28 & 29 日 Mon, 13 Sep 2021

--[iufro-j:41] ☆本日 17 時より開催です！☆～ IUFRO World Day @ 9 月 28 & 29 日 Tue, 28 Sep 2021

--[iufro-j:42] ☆本日 17 時より開催です！☆～ IUFRO World Day @ 9 月 28 & 29 日 Wed, 29 Sep 2021

--[iufro-j:43] ☆12 時より Asia, Asia-Pacific, Oceania パート開催です！☆～ IUFRO World Day Wed, 29 Sep 2021

--[iufro-j_rep:37] 機関代表会議について &（未納機関間向け）会費納入のお願い Tue, 14 Dec 2021

--[iufro-j:44] ☆森林協働プロジェクト アンケートご協力
のお願い：IUFRO-J 事務局より☆ Fri, 21 Jan 2022

--[iufro-j:45] ☆ IUFRO オンラインミーティング（ブナ）
のご案内：IUFRO-J 事務局より☆ Thu, 03 Feb 2022

--[iufro-j_rep:38] IUFRO-J NEWS No.131 の配信（機関内
会員へ配布のお願い） Mon, 21 Feb 2022

--[[iufro-j_rep:39] A 機関の（主に連絡員の？）皆様へ
（IUFRO の年会費 Invoice） Tue, 01 Mar 2022

7) その他

- (1) 2022 年 1 月 17 日以降、赤枠の料金受取人負担の払込取扱票を用いても、現金で支払う場合は ATM・窓口に関わらず一律サービス料金を徴収されることとなった。

- (2) IUFRO 本部より、2029 年世界大会のホスト国候補募集の告知があった。（立候補する場合、〆切は 4 月 15 日。）

1-2. 2021 年度役員

議 長	中静（浅野）透	（森林総合研究所）
監 事	石塚 森吉	（国際緑化推進センター）
	木口 実	（日本大学）
幹事長	平田 泰雅	（森林総合研究所）
幹 事	藤間 剛	（森林総合研究所）
主 事	杉元 倫子	（森林総合研究所）

[参考] IUFRO 国際評議員会日本代表（～ 2024）

代 表 中静（浅野）透（森林総合研究所）

代表代理 坪山 良夫（森林総合研究所）

1-3. 2021 年度会員数

A 会員：19 機関 計 457 名（会員数前年度比：15 名減）

B 会員：12 機関 計 29 名 + 5 口

（会員数前年度比：9 名 + 1 口減）

C 会員：20 名（会員数前年度比：3 名減）

賛助会員：0

議題 2. 2021 年度 (2021.03.01~2022.02.28) 会計決算報告

2022 年 3 月 9 日

一般会計

IUFRO-J 監事

【収 入】 (円)

日本大学 生物資源科学部

科 目	予 算	決 算	備 考
前年度繰越金	1,537,958	1,537,958	
会費 A 会員	468,000	440,000	17 機関
B 会員	53,000	44,000	10 機関
C 会員	21,000	16,000	16 名
2020 年度未収	73,000	72,000	2020 年度の会費を 2021 年度に払った団体、個人；7 機関，C 会員 1 名
雑収入	7	12	受取利息
単年度収入小計	615,007	572,012	
合計	2,152,965	2,109,970	※

【支 出】 (円)

科 目	予 算	決 算	備 考
情報活動費	337,000	219,320	IUFRO-J NEWS 印刷 及び 発送料
内訳			
NEWS No. 130 印刷	150,000	83,820	
〃 発送	15,000	9,870	送料 6,570 円， 発送手数料 3,300 円
NEWS No. 131 印刷	150,000	114,620	
〃 発送	15,000	11,010	送料 7,710 円， 発送手数料 3,300 円
通信費	7,000	6,575	切手代， 宛先用ラベル代
会議費	0	0	
雑 費	30,000	8,642	送金手数料， 会費振込手数料， 受払通知票発行料
助 成	200,000	0	
単年度支出小計	567,000	234,537	
予備費 (次年度繰越)	1,585,965	0	
合計	2,152,965	2,109,970	※の差額を反映済み

署名 木口 実 

議題 4. 2022 年度事業計画

一般会計事業

1) IUFRO-J NEWS 発行

以下，番号 (予定時期)：掲載記事に関する事務局案，について記述する。

No.132 (2022 年 7 月)：機関代表会議報告，集会報告，IUFRO 本部紹介，IUFRO INFORMATION，IUFRO-J 事務局からのお知らせ

No.133 (2023 年 1 月)：集会報告，IUFRO 本部紹介，IUFRO INFORMATION，IUFRO 関連集会カレンダー，IUFRO-J 事務局からのお知らせ

補足：

- ・ IUFRO 及び IUFRO-J の目的や主旨に沿う内容とし，会員相互に広く共有すべき記事を掲載する。
- ・ 各 200 部印刷し，冊子体が必要な B 機関と C 会員に配布する。また，関係者にも広く配布して会員拡大に取り組む。(それ以外の会員には原則 PDF ファイルをメールで配信する。)

2) IUFRO 研究集会事務局・参加助成

2.1) 2019 年選考分 (繰越)

事務局助成：採択 1 件 (助成金額 20 万円)

◎新潟大学 ACID RAIN 2020: The Future Environment and Role of Multiple Air Pollutants, 10th International Conference on Acid Deposition 事務局

2022 年 3 月 1～4 日 開催

(2020 年 10 月に開催予定だったが，新型コロナウイルス感染症のために延期となった。)

[参考] 令和 2 (2020) 年機関代表会議・2020 年度事業計画

(2020 年) 3 月 25 日に ACID RAIN 2020 事務局より，研究集会の開催が新型コロナウイルスのために 1 年延期することに決まったとの連絡があった。(追記：2022 年 1 月に再延期の連絡があり，前述の日程となった。)

議題 3. 2021 年度監査報告

2021 年度 IUFRO-J 事業会計について監査した結果，各種帳簿ならびに証拠書類はいずれも，正確に整理・記録されており，本件経理は適正であったことを認める。

2022 年 3 月 9 日

IUFRO-J 監事

国際緑化推進センター

署名 石塚 森吉 

本件は、

①主催者ではなるともしがたい「災害事象」による会合延期である

ことを踏まえ、IUFRO-J 役員間で検討し、

②実質単純な延期、または選考結果に影響を与えない程度の内容変更である

場合は、IUFRO-J 事務局一任で選考結果と予算を次年度へ引き継ぐこととする。①・②を確認し、判断できない、または問題がある場合は、再申請・再審査することとする。

2.2) 2021 年選考分

事務局助成：採択 1 件（助成金額 20 万円）

◎琉球大学 IUFRO 3.08.00 Small-scale Forestry International Conference 2022 事務局
2022 年 10 月 26 ～ 31 日 開催

2.3) 2022 年申請分

12 月末で申請額を集計し選考委員会に諮り、総額 50 万円程度を助成する。

資料 4 にある通り、IUFRO 研究集会事務局・参加助成実施要領、および同申請書を改訂する。

主な改訂点は、以下：

- ・申請書等は、電子メールで受け付ける。
- ・選考結果の発表方法を、応募者へは書面、会員には機関代表会議を通じて、と変更する。
- ・事務局助成を受けた場合、IUFRO-J の助成があることを研究集会参加者に明示することを求める。
- ・事務局助成については、研究集会全体の予算計画が分かる資料の提出を求める。

助成事業の概要（詳細は IUFRO 研究集会事務局・参加助成実施要領の最新版を参照のこと）

○助成申請は随時受け付けている。

○12 月末で集計し、選考委員会に諮り、助成対象を決定。

○具体的内容

「IUFRO 関連集会 事務局・参加」年間総額 50 万円程度

事務局：20 万円/件

参加：10 万円/件目途（発表は海外に限る、ただし世界大会を含まない。）

選考委員会（4 名で構成）で決定。

応募資格：会費を納入している機関、会員に限る。

助成を受けた者のオブリゲーション：IUFRO-J NEWS での報告。

加えて、事務局助成の場合は、IUFRO-J の助成があることを研究集会参加者に明示。

※ IUFRO-J 会員に該当者がいないため、「役員会出席助成」は 2018 年度から事業計画に掲載していない。（詳しくは、IUFRO-J NEWS No.124 掲載の機関代表会議概要報告を参照のこと。）

3) 研究集会の後援

- ・研究集会の目的が IUFRO-J の主旨に沿う研究集会について、広報の支援を行う。
- ・後援内容は、経費の支出をとまわらないものとする。
- ・主催者からの申請にもとづき、事務局で後援を決定、実施し、機関代表会議に報告する。

4) IUFRO 本部との連携

IUFRO-J 事務局としてメール等を介して IUFRO 本部との連携を推進するとともに、IUFRO-J ウェブサイトから IUFRO 情報を発信する。

5) IUFRO-J による普及啓発活動

IUFRO-J ウェブサイト等を通じて、IUFRO 及び IUFRO-J 会員の活動を、国内外のより多くの人に紹介する。

6) その他

現時点で複数年にわたり連絡が取れない C 会員 1 名を、2021 年度をもって退会とする。

議題 5. 2022 年度予算

予算案立案の基本的な考え方：単年度収支均衡を心がける。

※本年度より、情報活動費（IUFRO-J NEWS 印刷及び発送手数料）の内訳から、会費請求書等の郵便料である「通信費」を科目として独立させた。

一般会計予算案

【収入】		(円)
科目	予算	備考
前年度繰越金	1,875,433	
会費 A 会員	445,000	加入 18 機関
B 会員	61,000	加入 12 機関
C 会員	19,000	19 名
21 年度までの未収分	27,000	4 機関
雑収入	12	受取利息
単年度収入小計	552,012	
合計	2,427,445	
【支出】		(円)
科目	予算	備考
情報活動費	330,000	IUFRO-J NEWS 印刷及び発送手数料
内訳		
IUFRO-J NEWS	150,000	印刷費
No. 132 印刷・発送	15,000	発送費 (送料・手数料)
IUFRO-J NEWS	150,000	印刷費
No. 133 印刷・発送	15,000	発送費 (送料・手数料)
通信費	7,000	切手代、封筒代、ラベル代等
会議費	0	2022 (令和 4) 年機関代表会議は、ウェブ会議にて開催
雑費	30,000	事務局運営のための支出 (送金および会費振込手数料、受払通知票発行料等)
助成	400,000	事務局助成 2 件
予備費	500,000	2022 年度採択分助成 (見込)
単年度支出小計	1,267,000	
次年度繰越	1,160,445	
合計	2,427,445	

(別紙)

議題 6. 役員選出、承認

2022 年度役員候補・事務局案

役員 氏名	所属	区分 (任期)
議長 中静 (浅野) 透	森林総合研究所	現 (1 期目：2021 年 4 月～)
監事 石塚 森吉	国際緑化推進センター	現 (2 期目：2021 年 4 月～)
監事 福田 健二	東京大学	新 (1 期目：2022 年 4 月～)

幹事 平田 泰雅	森林総合研究所	現 (4 期目：2022 年 4 月～)
幹事 藤間 剛	森林総合研究所	現 (2 期目：2022 年 4 月～)
主事 齋藤 英樹	森林総合研究所	新 (1 期目：2022 年 4 月～)

議長、幹事および監事は機関代表会議で選出し、主事は議長が委嘱。(会則第 11 条)

任期は 2 年とし、再任を妨げない。(会則第 12 条)

議題 7. その他

その他の議題として、IUFRO Voting Board (選出理事) の公募に対し、次のように対応することとした。

IUFRO-J 会員の IUFRO 役員就任を積極的に応援する。現在、Working Party の役職についている方、これまで IUFRO の会合を開催した方、これから開催しようとしている方などが対象となりうる。自薦、他薦を含めアイデアがあれば事務局に連絡する。

2022 年 2 月 15 日付の IUFRO 本部から公募概要は次のとおり。

IUFRO Voting Board は、IUFRO の執行機関で、会長、副会長 (2 名)、9 つの Division の共同コーディネーター (各 2 名)、最大 5 名の会長候補からなる。今回の公募で選出された場合の任期は、2024 年 6 月から 2029 年の世界大会まで。

IUFRO 会員 (機関会員所属もしくは個人会員) は、候補者を推薦できる。候補者を選出委員会が審議して、2023 年初めの国際評議会および理事会に提言をする。2023 年 6 月から 7 月にかけて国際評議会による選挙を行ない、次期役員を決定する。

2021 年の理事会決定により、次期 Voting Board の構成はジェンダーと地域バランスを考慮する。具体的には、Division 共同コーディネーター各 2 名のうち 1 名は、女性もしくはこれまで Voting Board に役員を出していない地域の出身者とする。

候補者の推薦にあたっては、候補者自身の希望と所属機関の承認が必要である。

各 Division 共同コーディネーターは選出後に、最大 4 名の副コーディネーターは、理事会に提案し承認を受ける。副コーディネーターのうち 2 名は、それぞれの Division に所属する研究グループのコーディネーターでなければならない。

IUFRO 研究集会事務局・参加助成実施要領

- 対象集会：IUFRO 関連研究集会（参加費助成は、海外での研究集会に限ります。ただし、世界大会への参加助成はいたしません。事務局費助成は、事務局が日本にある場合に限ります。）
- 選考：12 月末現在で集計し、集計時から 1 年 3 カ月後までに開催される研究集会を選考対象として選考委員会に諮ります。
- 選考結果：応募者に書面にて連絡。会員には、機関代表会議を通じて報告。
- 条件：IUFRO 本部の会議カレンダーに掲載されるなど、IUFRO の一環であること。
- 助成時期：原則として集会開催 1 カ月前。
(国際集会の場合、キャンセルになる場合もありますので、できるだけ直前とします。)
- 助成金額：事務局：20 万円/団体、
集会参加：10 万円/人 を目途とします。
- 備考：助成を受けた機関・会員には IUFRO-J NEWS への投稿を求めます。加えて事務局助成の場合は、IUFRO-J の助成があることを研究集会参加者に明示することも求めます。
- 応募資格：会費を納入している機関、会員
- 会則第 5 条に則り、研究者登録をお忘れなくお願いします。
事務局で会費納入を確認できない方は助成の対象にできません。
○研究集会参加は筆頭発表者に限ります。
- 注意：助成金額はあくまで目途です。IUFRO-J 一般会計の収支状態によって、事務局で勘案いたします。
- 募集：随時受付、規定の申請書に必要事項を記入し、必要資料を添付して、下記まで電子メール添付にて送付。
- 附則：平成 9 (1997) 年 4 月施行通知 (IUFRO-J NEWS No.61 掲載)
平成 9 (1997) 年 7 月 10 日：一部改定
平成 13 (2001) 年 8 月：一部改定 (IUFRO-J NEWS No.73 掲載)
令和 4 (2022) 年 3 月：一部改定 (IUFRO-J NEWS No.132 掲載予定)
- 〒 305-8687 茨城県つくば市松の里 1 番地
森林総合研究所内 IUFRO-J 事務局 宛
iufro-j@ffpri.affrc.go.jp

IUFRO 研究集会事務局・参加助成申請書

助成区分： 事務局 参加 (どちらかに○)

応募者氏名 (事務局の場合は代表者)：

所 属：

連絡先住所：〒

TEL：

E-mail：

研究集会名：

(あれば) ウェブサイトの URL：

開催日時 (未確定の場合は時期)・場所：

集会規模 (概数)：

IUFRO との関連 (例 第 x 部門のワークショップ / シンポジウム)：

助成金の主な使途 (事務局の場合)

発表題目 (研究集会参加の場合)

添付資料 (一覧)

集会の内容や発表がわかる資料を、必ず添付してください。事務局助成の場合は、研究集会全体の予算計画が分かる資料も添付ください。

IUFRO-J NEWS No. 132 **July 31, 2022**

Copyright © 2022 IUFRO-Japan

Published by IUFRO-Japan

Edited by IUFRO-Japan Secretariat

1 Matsunosato, Tsukuba, Ibaraki 305-8687 JAPAN

TEL: +81-29-829-8327

http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/index_Eng.html

Email: iufro-j@ffpri.affrc.go.jp

ISSN: 2189-5503

IUFRO-J NEWS No. 132 **2022年7月31日**

国際森林研究機関連合日本委員会 (IUFRO-J) 事務局

〒305-8687 茨城県つくば市松の里1

国立研究開発法人 森林研究・整備機構

森林総合研究所内

TEL 029-829-8327 (国際連携推進室)

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/>

Email: iufro-j@ffpri.affrc.go.jp

株式会社ソウブン・ドットコム

[編集・発行]

[印刷]